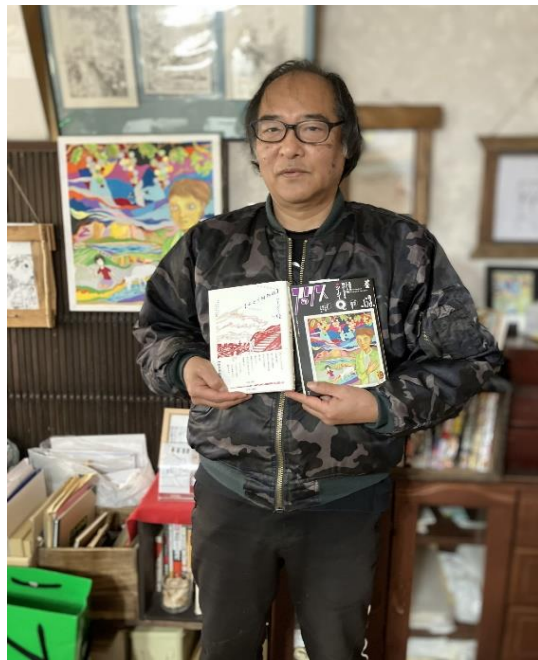


移住者新聞

2024
Vo4.

二〇二五年二月
発行：日田市
商工労政課移住促進係



令和4年に神奈川県川崎市から日田市大鶴に移住した辻村さん。漫画制作の傍ら、畑仕事に地域行事と田舎暮らしを満喫されています。

◆移住後の暮らし

令和4年に神奈川県川崎市から日田市大鶴へ移住しました。コロナ禍や定年を迎えること、妻の親の介護がきっかけです。

田に住み始めてからは作画も少し変わってきました。家の近くに畑があり、野菜作りにも取り組んでいます。最初は畑が荒れ果てており、草刈り機も使ったことのない未経験者でしたが、自身の実家がある長崎へも近くなり帰省しやすくなるとの近所の方に耕運機を借りて畑を耕し、大根・玉ねぎ・じゃがいもを作れるようになりました。近くに大きな銀杏の木もあり、秋にはか

の話が多かったです。日

春には裏山でタケノコが採れるので、水煮にして販売しています。地域の方や移住者の方とも良く遊びに来てくれるので楽しく交流しています。日田市が開催している移住体験ツアーでも移住希望者の受け入れをして、妻と一緒に田舎暮らしのリアルな話を伝えています。

日田市への移住者に必ず聞かれる質問の一つが「水害」。水郷として知られ自然豊かな日田だからこそ自然の驚異とも隣り合わせな一面も。現在は河川改修工事も進み、地域の方も復興に向けて精力的に取り組まれており、被災前よりも力強く魅力ある地域として復興を遂げています。今号は神奈川県から日田市大鶴に移住した辻村さん取材しました。

◆現在取り組んでいること

長崎の幼少時代のことを描いた漫画を連載しています。近所の方に聞いた話をもとに、大鶴地区鶴内を題材にした漫画も現在制作中です。

また地域の風景を描くことが多くなり、昨年には集落支援員さんの勧めで旧大鶴駅舎にて展示会を開催しました。風景画はポストカードにして郵便局や地域の収穫祭等でも販売しています。

地区の清掃活動やお宮の掃除など関東に住んでいる時にはしたことがなかったこともチャレンジしています。収穫祭では歌も披露しました。



タケノコと銀杏は近くの直売所で販売している。おいしいと評判。



長年バンドを組みベーシストとして活動



今まで連載してきた漫画。ペンネームは「ツージーQ」



旧大鶴駅舎にて開催した展示会の様子



バックナンバーはこちら

◆おすすめの場所

大肥川の桜並木がとても綺麗。散歩コースにちょうど良く空気も良いところ。日田どん（相撲の神様）のお墓への入口も気に入っています。



大鶴の桜は絶景。
春にはウォーキング大会も開催されている。



辻村さんが描いた
大肥川の桜

◆ひた暮らして伝えたい事、知ってほしい事

都会に住んでいた頃は自分のことだけ考えていれば良かったですが、こちらでは地域の草刈りや神社の清

掃・祭りも参加する必要があります。

どれも経験したことがなく不安でしたが、やってみたら案外できるようになりました。

日田市は空気が澄んでいて水も綺麗な良いところです。大鶴地区は田舎のままが残っている貴重な存在。自然が多く気持ち的にも安心して暮らせています。



高台から望む大鶴地区。
いつ訪れてもホッとする景色が
広がっている。

◆今後の目標

大鶴地区を舞台にした漫画を制作中なので、単行本として出来上がったら皆さんに見てもらいたいです。

自分で書いた絵や原画の展示会を日田市内で開催してみたいです。

同じ大鶴地区の方がいい人ばかりなので今後も仲良く田舎暮らしを満喫していきたいと思っています。

○大鶴地区とは

日田市の西部に位置し福岡県と隣接する。酒造会社を2件も有するよ
うな清浄な水に恵まれ、地味肥沃で
農耕に適した地域。平成29年の九州
北部豪雨の際は大きな被害があった
被災地でもある。しかし、この地域
の魅力に惹かれたたくさんの方が復興
に向けて取り組んでおり、盛り上がり
を見せている。

令和5年には日田彦山線BRTひこ
ばしラインが開通し北九州～日田市
までの交通網も整備されている。



BRT(バス高速輸送システム)は福岡県添田町～
日田市間約40キロを走っています。日田市中心部
へも乗り換え無しでアクセスできます。

○やさしい工房 沙羅

(日田市大肥本町)

大鶴地区の農産物直売所。平成29年の九州北部豪雨で大きな被害を受けたが、関係者の努力で再建された。その日の朝に地元で採れた新鮮な野菜が並ぶ。辻村さんが作った野菜も販売している。

○移住体験ツアー

平成29年九州北部豪雨の復興と地域の活性化を目的としているいろいろな事業が実施されている。その一つとして大明地区(大鶴と夜明地区)で一日二日のオーダーメイドツアーを行っている。参加費無料。

